【授業科目】急性看護学特論Ⅰ（危機とストレスに関する科目）Advanced Acute Nursing Ⅰ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
吉田 和枝	１年次 前　期	選　択	２	３０	講　義	巻末 掲載

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	クリティカル期にある対象の体験を全人的苦痛としてとらえ、危機理論・ストレス・コーピング理論等を用いて教授する。特に、突然の生命の危機状況に対する患者・家族の衝撃および立ち直りの過程について、先行研究や文献を用いて検討する。さらに実際の事例を検討する中で、危機的状況にある患者・家族への高度看護実践者としての援助方法を探求する。実務家教員（吉田）が進める 課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートは、授業内でディスカッションを通じてフィードバックする。
授業の 位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシーの②、③、④の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①危機状況下における人間の反応を総合的に捉える科学的アプローチの基盤となる危機理論・ストレス／コーピング理論の原理や実践への応用力を身につけることができる。 ②衝撃的な体験に対しての回復過程やそれを促す専門的援助方法の事例検討を通じて、健康危機状況における人間の内在世界や人間存在価値や意味についても認識を表現することができる。 ③危機理論やストレス／コーピング理論を看護の質向上に適用できる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	配布資料および紹介する文献は授業以外にも読むことで授業の理解を深める（各 60 分）。 臨床での体験を授業内容に生かし、学びを深める（各 60 分）。 自らも文献レビューを行い、レポートおよびプレゼンテーション資料を作成する（各 120 分）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回)（１単位１５回科目の場合：予習+復習 1時間／１回)（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	＜健康危機状況下にある患者＞ 第 1 回 健康危機状況下にある患者の苦痛と看護ケアの特徴 第 2 回 健康危機状況下にある患者・家族の理解 Body-mind-spirit 統合体としての患者理解 第 3 回 患者の体験している世界に接近するための相互作用技術 象徴的相互作用理論の理解と応用 第 4 回 患者の体験していることと意味の理解－問題提起と討論 ＜高度ストレス状況下にある患者ケアに活用できる理論＞ 第 5 回 高度ストレス状況下にある患者ケアに活用できる理論 ①危機理論の理論基盤、関連のある諸概念 第 6 回 高度ストレス状況下にある患者ケアに活用できる理論 ②危機理論の種類や特徴 第 7 回 高度ストレス状況下にある患者ケアに活用できる理論の応用 ③理論の応用：例：手術等 侵襲的治療を受ける人の事例検討 ④理論の応用：例：救命救急治療を必要としている人の事例検討第 8 回 高度ストレス状況下にある患者ケアに活用できる理論の応用 ＜危機理論の比較検討 ストレス／コーピング＞ 第 9 回 危機理論の比較検討 第 10 回 ストレス／コーピング: ストレスとコーピングの概念、理論の歴史的発展 第 11 回 ストレス／コーピング: ラザルスのストレスとコーピング理論 文献検討 ＜ 理論を活用した事例検討：活用する理論の基盤となっている概念、特徴、危機状況を明確にして看護介入への有用性について検討する＞ 第12 回 事例検討：プレゼンテーション 例：突然の健康状況危機（外傷に伴う機能障害） 第13 回 事例検討：プレゼンテーション 例：手術的治療に伴う強度の不安 第14 回 事例検討：プレゼンテーション 例：苦痛状況に対するストレス／コ-ピング 第15 回 事例検討：プレゼンテーション 例：患者家族のストレス／コーピング 全て吉田
評価方法 評価基準	授業参加状況 10%、プレゼンテーション 50%、課題レポート 40%
教科書	必要な場合、担当教員より事前に指定する。
参考書等	井部俊子・大生定義監修：専門看護師の思考と実践 医学書院